

# 「民都・大阪」の実現に向けて

平成30年12月27日

「民都・大阪」フィランソロピー会議 金井 宏実

# 民都・大阪とは・・・

淀屋橋、心齋橋、道頓堀などに名を残すように大阪のまちは商人や町人が自らの暮らすまちは自分たちで良くしようという大阪人氣質(かたぎ)に裏付けられた民都でした。

「まちはステージ・市民は演者」という東京に対して、大阪は、「まちは我家・市民は家族」という価値観が根強く残っています。

日本の経済成長を支えてきた「55年体制」は役割を終え、これからの成熟社会を作るための新たな社会構造は「市民・行政・企業」による市民社会です。

阪神・淡路大震災以降、公益法人やNPOだけでなく、SB(ソーシャルビジネス)、営利企業でも社会の課題解決に力をいれてきました。

これからの活動をさらに進めて行くためには**社会基盤の整備**や**市民社会実現のための啓発**が必要です。

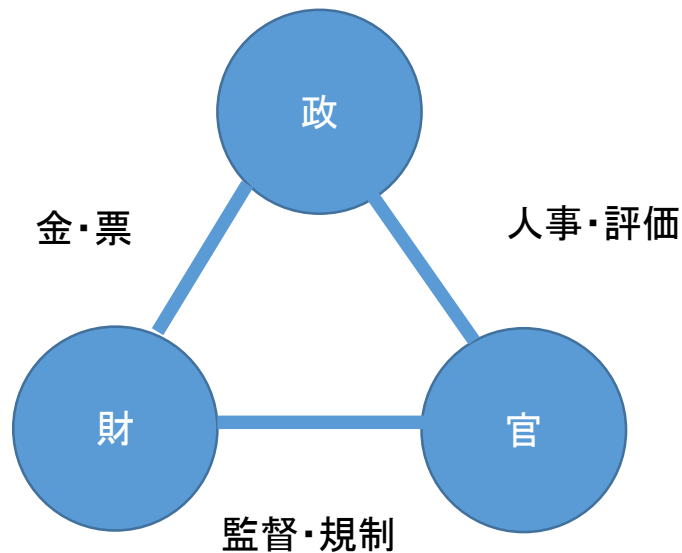
イタリアの思想家チェスタンは次のように残しています。

「ローマが偉大だから人々はローマを愛したのではない。人々が愛したからローマは偉大になったのだ。」

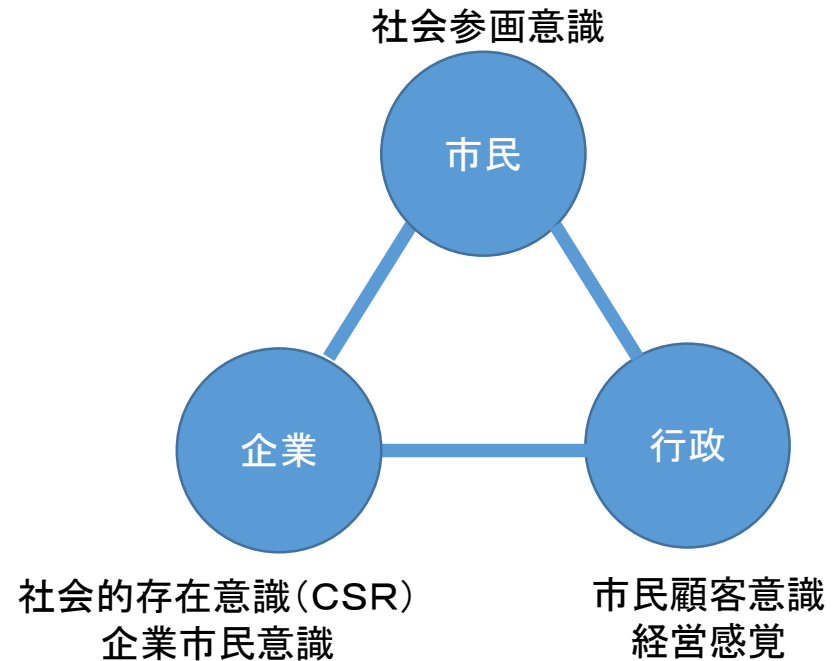
**「大阪が市民のために何をしてくれるか」ではなく、「我々市民一人ひとりが愛する大阪のために何ができるか」が民都・大阪の実現のために重要なのです。**

# 55年体制から市民社会へ

55年体制



市民社会



# Vision(めざすもの)からTactics(戦術)へ



民都・大阪の実現

